



1-1, 母の日 1972年

—母親のいない私にとって生涯あこがれの一枚です。子どものなんとも安心しきったまなざし。母に抱かれるぬくもりが伝わってくる、あたたかく慈愛に満ちた作品だと思います。(走る料理人 主婦)

みんなのリクエストでつくる展覧会です

この秋、安曇野と東京、ふたつのちひろ美術館で、みなさんが好きないわさきちひろの絵で構成する展覧会を開催します。本展のために、ちひろの絵のリクエストを募り、その絵にまつわるメッセージをお寄せいただきました。大切な人との時間を思い出したり、やわらかな色彩に心を寄せたり——ちひろの絵に寄せられたことばからは、ひとりひとりの人生や思いが見えてきます。

本展では、みなさんのメッセージとともに、ちひろの作品をピエゾグラフィ*で紹介します。みなさんの大切な思いが集まってできた展覧会をお楽しみください。

「ピエゾグラフィによるわたしの好きないわさきちひろ展」

特設サイト→https://myfavorite.chihiro.jp/#way_to_participate
集計結果を中間発表しています。

ピエゾグラフィとは

ちひろ美術館では、2004年以降、その時点での作品の風合いを後世に伝えていくため、原画をデジタル情報として記録し、保存していくアーカイブを続けています。同時に、そのデジタル情報をもとにして、「ピエゾグラフィ」の制作も進めています。ピエゾグラフィは、耐光性のある微小インクドットによる精巧な画像表現で、ちひろの繊細な水彩表現を高度に再現しています。

ピエゾグラフィについて、動画でも紹介しています→<https://myfavorite.chihiro.jp/about/>

ピエゾグラフィによる

わたしの好きないわさきちひろ展

2021年9月11日(土)～11月30日(火)

会場：安曇野ちひろ美術館 展示室1・2

主催：ちひろ美術館

後援：絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童
図書評議会、日本児童図書出版協会、(公社)日本図書館協会

協賛：株式会社ジャクエツ



1-2, はなぐるま 1967年

—この作品を見ると、私は懐かしい気持ちになります。初めてこの「はなぐるま」という作品に出会ったとき、小さいころの私と弟を思い出しました。祖母が育てた花を弟といっしょに両手いっぱい摘んで、家族に自慢したあの日が「はなぐるま」と重なって、急にふわっと思い浮かび、なんだかとても不思議な気持ちになりました。(ちひろ 高校生)

会期：2021年9月11日(土)～11月30日(火)

※会期は予告なく変更になる場合があります。

○開館時間=10:00～17:00

○休館日=水曜日(祝休日開館、翌平日休館)

料金：大人900円/高校生以下無料

団体(有料入館者20名以上)、65歳以上、学生の方は700円/障害者手帳ご提示の方とその介添えの方(1名)は無料/年間パスポート3000円

展覧会の見どころ ・参加型の展覧会です

リクエスト募集を3月から始め、現在(8月初旬)までに2,000通を超える応募をいただいています。本展は、リクエストをいただいた作品で構成します。会期中も引き続きメッセージを募集し、届いたメッセージは展覧会会場のほか、特設サイト、SNSでも紹介します。

・みなさんのメッセージからちひろの絵の見方が広がります

寄せられたメッセージの一部をご紹介します。

・安曇野と東京で同時開催

この展覧会は、より多くのリクエストにお応えできるよう、安曇野と東京、ふたつのちひろ美術館で同時開催します。

リクエスト上位の作品は各館共通で、その他は各館異なる内容で展示します。

・ちひろ美術館・東京：2021年10月2日(土)～2022年1月16日(日)



1-3, 赤い毛糸帽の女の子 『ゆきのひのたんじょうび』(至光社)より 1972年

—あたたかそうな帽子と手袋、そして雪までもなんだかぬくもりを感じる絵だと思います。私も1月2日の雪の日に生まれたので、この絵には特別な思い出があります。(T.I.)

出展作品数 約70点

主な出展作品 母の日 1972年/赤い毛糸帽の女の子 『ゆきのひのたんじょうび』(至光社)より 1972年/緑の風のなかの少女 1972年/麦わら帽子をかぶったおにた 『おにたのぼうし』(ポプラ社)より 1969年 ほか

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「プレス用作品画像データ借用・誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。 ※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。

※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。 ※掲載紙/誌をご送付ください。



1-4, 緑の風のなかの少女 1972年

—24年前の夏、安曇野で出会った少女。あの日のまますと風のなかでほほえんでくれています。その姿に娘を重ね合わせていたことが、今も懐かしく思い出されます。(ねこはは)



1-5, 十五夜の月 1965年

一月の色がすぎだから。(そお 小学生)

同時開催

会場：越前市「ちひろの生まれた家」記念館 〒915-0068 福井県越前市天王町4-14 TEL.0778-66-7112

会期：2021年9月10日(金)～11月23日(火・祝)

開館時間：10:00～16:00 休館日：火曜日(祝日の場合は翌日) 入館料：一般 300円/高校生以下は無料

<企画展> 没後1年 田畑精一『おしいれのぼうけん』展

2021年9月11日(土)～11月30日(火)

会場：安曇野ちひろ美術館 展示室4

主催：ちひろ美術館

協賛：株式会社ジャクエツ

協力：童心社、偕成社、白梅学園大学・白梅学園短期大学 子ども学研究所 古田足日研究プロジェクトチーム、
人形劇の図書館、人形工房



2-1, 『おしいれのぼうけん』(童心社)より 1974年



2-2, 『おしいれのぼうけん』(童心社)より 1974年



2-3, 『おしいれのぼうけん』(童心社)より 1974年

ねずみばあさん、あらわる！

1974年に刊行された『おしいれのぼうけん』は子どもたちの絶大な人気を集め、234万部を超すミリオンセラーになっています。本展では、昨年6月に89歳で亡くなった絵本画家・田畑精一の画業をしのび、『おしいれのぼうけん』の原画を展示するとともに、子どもと正面から向き合い、作家と画家と編集者が三位一体となって取り組んだ絵本づくりを紹介します。

ほかにも作家との共作による絵本として、古田足日との『ダンプえんちょうやっつけた』や、神沢利子と組んだ『ゆうちゃんのゆうは?』などの原画や習作のほか、人形座時代の貴重な人形なども展示し、子どものために作品をつくり続けた田畑の思いを浮き彫りにします。

また、「日・中・韓 平和絵本」シリーズの1冊として制作された自伝的絵本『さくら』を通して、戦争体験を経ての平和への強い思いや、国境を越えて人望の厚かった田畑の人物像を紹介します。

展覧会の見どころ 234万部のミリオンセラー 『おしおのぼうけん』の絵本づくりを紹介

さくら保育園には怖いものがふたつあります。ひとつはおしおで、もうひとつはねずみばあさん。先生に叱られておしおに入れられたさとしとあきは、恐ろしいねずみばあさんと対決することに……。

『おしおのぼうけん』には、「さく／ふるたたるひ たばたせいいち」と、作家名と画家名がいっしょに表記されています。文章に絵を添えるのではなく、作家と画家と編集者が三位一体となって、80ページに及ぶこの絵本はつくられました。田畑は保育園のいきいきとした日常を描くために取材を重ね、画材も保育園で子どもたちが使うような画用紙に鉛筆で絵を描いています。世代を超えて読み継がれるロングセラーの絵本づくりを探ります。

平和への願い 日・中・韓 平和絵本『さくら』

「日・中・韓 平和絵本」として制作された『さくら』は、田畑精一の自伝的絵本です。

日中戦争開戦が始まった1931年に生まれた「ぼく」は、聖戦を勝ち抜くために、桜の花のように散れ、散れ……と教えられ、軍国少年として育ちました。終戦の年に父を亡くし、戦後、貧しさに苦しむなかで、戦争によって世界中の大勢の人が命を失い、親しい人を失った人の悲しみが世界をおおっていることに気づきます。桜の老木がぼくに語りかける「戦争だけは ぜったいに いかん！」ということばは、田畑精一自身が生涯抱き続けた願いです。



2-4, 『さくら』(童心社)より 2013年

人形劇の人形、紙芝居や絵本の原画などを多数公開

1953年から参加した人形座で手がけた「猿蟹合戦」などの人形のほか、初期の紙芝居『おとうさん』、絵本『ゆうちゃんのゆうは?』の原画や習作、墨の線描による「甲賀三郎・根の国の物語」、風景画からロボットまで多様な画風の試作が垣間見えるスケッチブックなど、田畑精一の画業を知るうえで貴重な作品と資料の数々を展示します。

出展作品数 約100点

主な出展作品 『おしおのぼうけん』(童心社)1974年／『ダンブえんちょうやっつけた』(童心社)1978年／『ゆうちゃんのゆうは?』(童心社)1981年／『へび山のあい子 赤い矢と青いほのおの物語』(童心社)1987年／『さくら』(童心社)2013年 ほか

作家プロフィール



田畑 精一 (たばた せいいち 1931～2020)

1931年大阪市生まれ。京都大学理学部中退後、本格的に人形劇にうちこむ。人形劇団ブークや人形座などで活動の後、古田足日と出会い、子どもの本の仕事を始める。主な作品に『おしおのぼうけん』、『ダンブえんちょうやっつけた』、『ゆうちゃんのゆうは?』、『ひ・み・つ』(いずれも童心社)、『さっちゃんのまほうのて』、『ピカピカ』(いずれも偕成社)などロングセラー多数。「日・中・韓 平和絵本プロジェクト」の呼びかけ人のひとりであり、自身は『さくら』(童心社)を手がけた。紙芝居も数多く、『おとうさん』(童心社)で高橋五山賞画家賞受賞。

図版について 本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。ご希望の方は、別紙「プレス用作品画像データ借用・誓約書」をご覧ください。



2-5, 『水の上のタケル』(偕成社)より 1969年



2-6, 『ゆうちゃんのゆうは?』(童心社)より 1981年



2-7, 『さくら』(童心社)より 2013年



ちひろ美術館コレクション

絵本で世界を旅しよう！

2021年9月11日(土)～11月30日(火)

会場：安曇野ちひろ美術館 展示室4

主催：ちひろ美術館

協賛：株式会社ジャクエツ

新型コロナウイルスの影響で、わたしたちは海外を訪れることが制限され、国内でも移動には注意が必要、そんな生活を経験することになりました。自由に行動していたときを思うとどうしても窮屈に感じます。しかし、絵本の世界には制限も心配もありません。本展では、ちひろ美術館のコレクションのなかから、世界のさまざまな国の文化や生活を描いた作品をご紹介します。作品をとおりて世界旅行をお楽しみください。

出展作品数	約20点
主な出展作品	ポルマー・バーサンスレン(モンゴル)『ぼくのうちはゲル』より 2004年/于大武(中国)『三国志絵本 十万本の矢』より 1997年/チャールズ・キーピング(イギリス)『しあわせどおりのカナリヤ』より 1967年/ウェン・シュウ(コスタリカ)『ナディとシャオラン』より 2008年 ほか



3-1, ウェン・シュウ(コスタリカ)『ナディとシャオラン』より 2008年



3-2, 于大武(中国)『三国志絵本 十万本の矢』(岩波書店)より 1997年

ちひろ美術館コレクション

エリック・カールさんをしのんで

2021年9月11日(土)～11月30日(火)

会場：安曇野ちひろ美術館 展示室3

主催：ちひろ美術館

協賛：株式会社ジャクエツ

世界中の子どもたちに愛されている色鮮やかなしかけ絵本『はらぺこあおむし』の作者・エリック・カールさんが、5月23日に91歳で亡くなりました。

絵本原画を美術作品として位置付けたいという当館のコンセプトに共感し、1985年にちひろ美術館コレクション第1号となる作品を寄贈してくださったのは、カールさんでした。本展では、ちひろ美術館が所蔵するカールさんの作品を展示するほか、コラージュを用いた技法や、長年にわたる当館とカールさんとの交流なども紹介します。子どものために描き続けた芸術家、エリック・カールさんの作品をご覧ください。

出展作品数	約13点
主な出展作品	『はらぺこあおむし』のイメージ 1999年/ おんどり 1985年/ 『ぼくのねこみなかった?』のイメージ 1972年 ほか

3-3, エリック・カール(アメリカ)『はらぺこあおむし』のイメージ 1999年
Eric Carle, image from *the Very Hungry Caterpillar*.
Collection of The Chihiro Art Museum. ©1999 by Penguin Random House LLC.3-4, エリック・カール(アメリカ) おんどり 1985年
Eric Carle, Rooster.
Collection of The Chihiro Art Museum. ©1985 by Penguin Random House LLC.

ピエゾグラフによる わたしの好きなちひろ展関連企画

ちひろ美術館 東京・安曇野をつなぐオンライン鑑賞会

10月16日(土)17:00～

会場：オンライン 参加費：無料 定員：50名

申し込み：要事前予約(公式サイトにて)

ちひろ美術館・東京と安曇野ちひろ美術館をつなぐオンライン鑑賞会を行い、開催中の
展覧会「ピエゾグラフによる わたしの好きなちひろ展」や各館の見どころを紹介します。



秋の花と子どもたち 1965年

没後1年 田畑精一『おしいれのぼうけん』展 展示関連企画

学芸員によるスライドトーク「田畑精一の絵本づくり」

11月3日(水・祝)14:00～

会場：安曇野ちひろ美術館 参加費：無料(入館料別) 定員：40人

申し込み：要事前予約(公式サイト/TELにて)

子どもの心に届く作品をつくりたいと願った田畑精一の絵本づくりについて、担当学芸員がスライドを使って解説します。



『おしいれのぼうけん』(童心社) 1974年

コレクション展 絵本で世界を旅しよう！ 関連企画(オンライン)

コレクション画家によるアトリエトーク

10月以降を予定(詳細が決まり次第、リリース、当館公式サイトでお知らせします)

申し込み：要事前予約(公式サイトにて)

海外を拠点に活躍する絵本画家に作品や絵本づくりについてお話を伺います。



ボロルマー・バーサンズレン(モンゴル)
『ぼくのうちはゲル』(石風社)より 2004年

●敬老の日

9月20日(月・祝)は、敬老の日です。この日、65歳以上の方は入館無料となります。
(受付にてお申し出ください。)

●いい育児の日

ベビーカーでおでかけ、ファーストミュージアムデー

11月19日(金)10:30～11:30

会場：安曇野ちひろ美術館 対象：0歳から2歳の子どものとその保護者

参加費：無料(入館料別) 定員：親子10組

申し込み：要事前予約(公式サイト/TELにて)

ファーストミュージアムとは、生まれてはじめて訪れる美術館。0歳から2歳のお子さんとともに、あかちゃん絵本のおはなし会や、開催中の展覧会「わたしの好きなちひろ展」のガイドツアーなど、安曇野ちひろ美術館を親子でゆっくり楽しみましょう。



でんぐり返しをしようとするあかちゃん 1965年

●長野県民感謝デー

日時：11月27日(土)

日ごろの感謝の気持ちを込めて、この日、長野県にお住まいの方は、入館が無料になります。ご家族やご友人をお誘いあわせのうえ、ぜひご来館ください。

※受付でご住所のわかるものをご提示ください。

●トットちゃん広場5周年イベント

青空トモエ学園 田んぼの教室

稲刈り&はぜかけ (稲刈りとはぜかけを体験しよう！)

日時：9月19日(日)9:00～11:00

会場：安曇野ちひろ公園・体験交流館

※定員に達したため、申し込み受付を終了しました。

青空トモエ学園 田んぼの教室

はんごうすいさんとりんご狩り

(収穫した新米をはんごうすいさんと味わおう！)

日時：10月10日(日)9:00～13:00

会場：東印平林農園・安曇野ちひろ公園・体験交流館

※定員に達したため、申し込み受付を終了しました。

●新刊のご案内

『ちひろダイアリー』

河出書房新社 発行

竹迫祐子・ちひろ美術館 編著

A5版 144ページ 2021年7月27日刊行

定価2,145円(本体1,950円)

いわさきちひろの絵に息づく懐かしく幸せな光景。絵のなかで子どもたちは真っすぐに前を見つめ、未来への希望に満ちている。生涯に描いた1万点の絵画から厳選。



上記のイベントおよび開館情報、会期、展示名は予告なく変更になる可能性があります。

最新情報につきましては、公式サイトをご覧ください。お電話にてお問い合わせください。みなさまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。